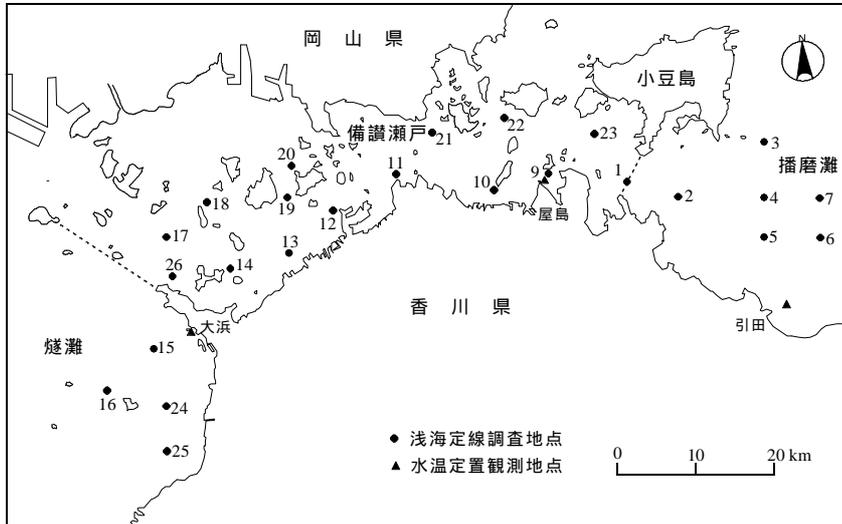


香川県漁海況速報 平成19年 11月 (H19-8号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成19年11月2日 (播磨灘) 1日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「かなり高め」、塩分は「やや高め」、透明度は「やや低めからやや高め」、溶存酸素は「かなり低めからやや低め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	22.6	22.6	22.6	32.6	32.6	32.6	7.0	4.37	4.38
	平年値	21.3	21.2	21.3	31.9	31.9	32.1	8.3	4.95	4.80
	平年偏差	1.4	1.4	1.3	0.7	0.7	0.5	-1.3	-0.58	-0.42
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	かなり低め	かなり低め
備讃瀬戸	14地点平均値	22.1	22.1	22.1	32.8	32.8	32.8	6.3	4.52	4.45
	平年値	20.6	20.6	20.6	31.6	31.6	31.7	4.9	4.91	4.89
	平年偏差	1.4	1.5	1.4	1.1	1.1	1.1	1.4	-0.39	-0.44
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	かなり低め
燧灘	4地点平均値	22.3	22.4	22.5	32.8	32.8	32.9	9.1	4.80	4.71
	平年値	20.9	20.8	20.8	31.9	31.9	32.0	7.7	5.26	5.02
	平年偏差	1.4	1.6	1.7	0.9	0.9	0.9	1.4	-0.46	-0.30
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	かなり低め	やや低め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

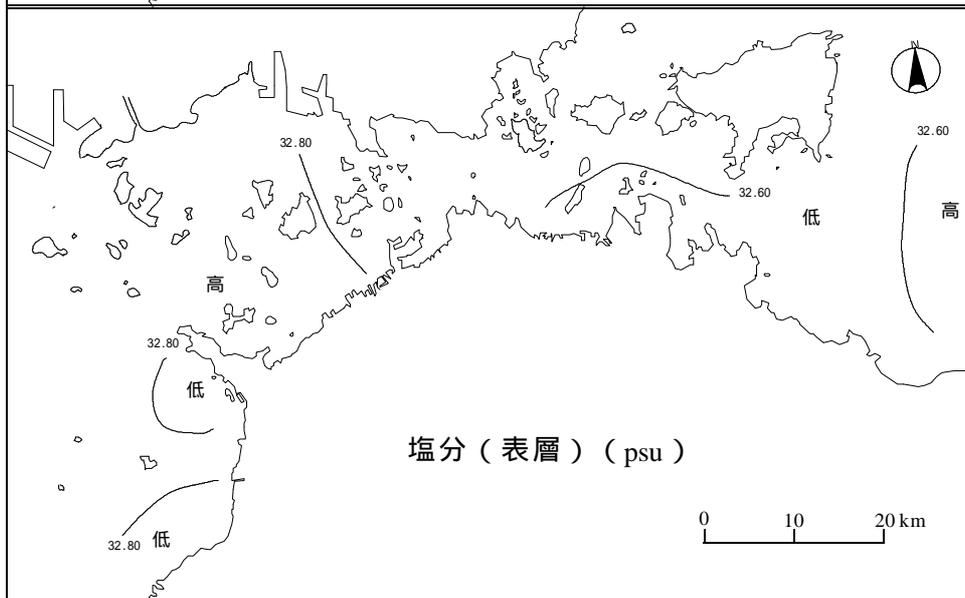
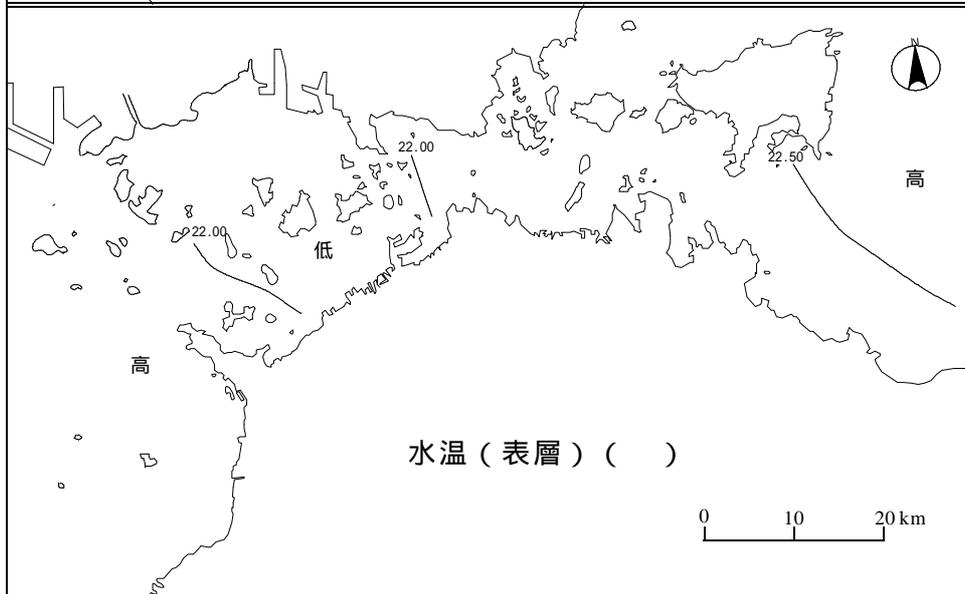
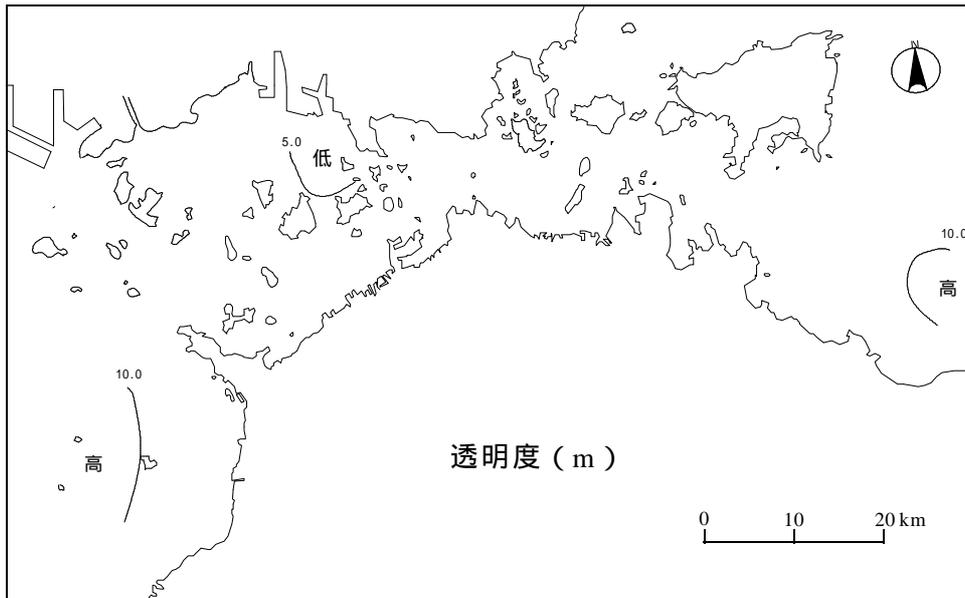
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

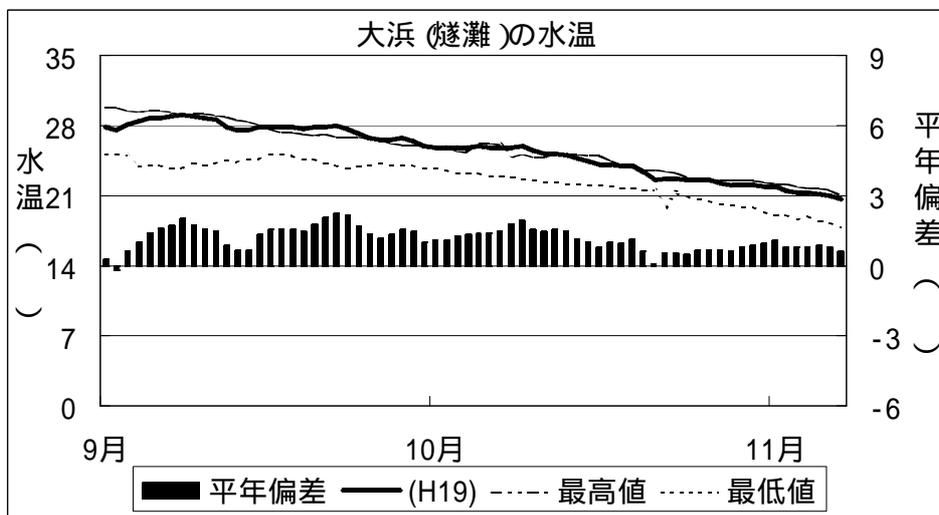
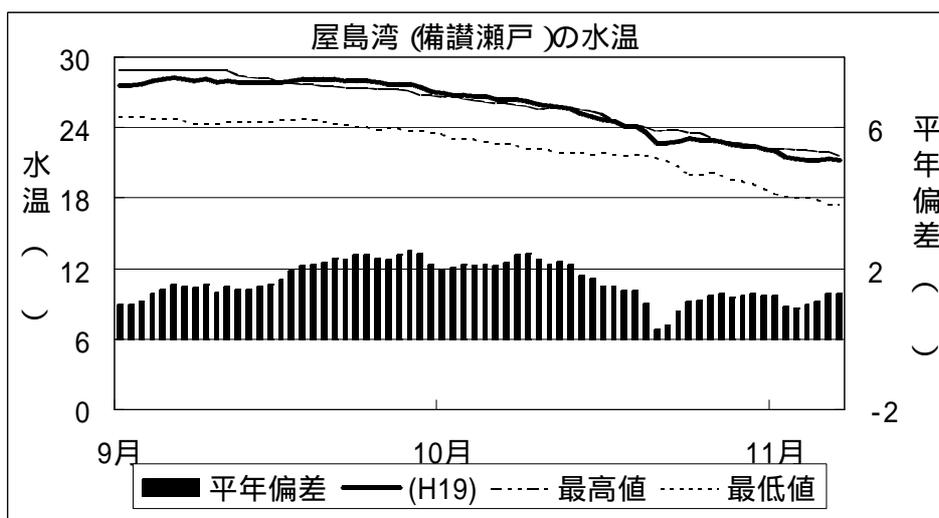
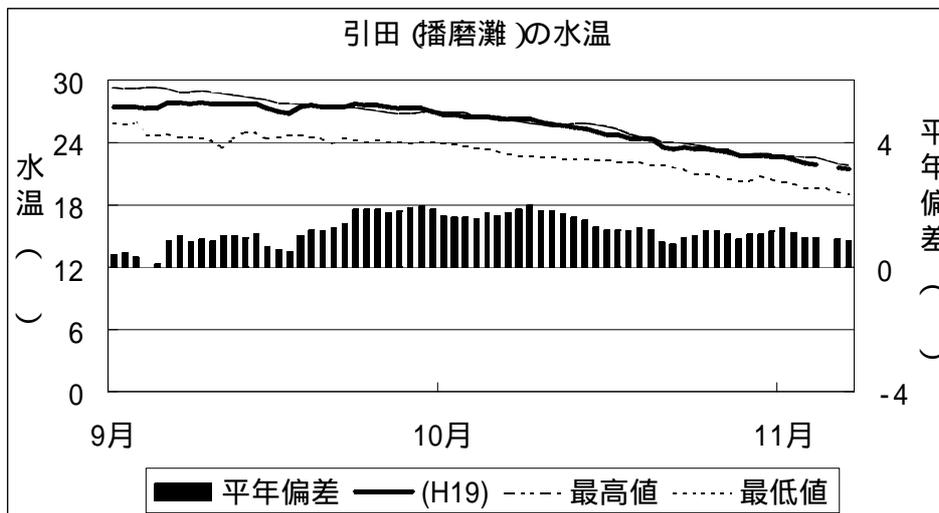
平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



3) 定置観測(水温)

播磨灘(引田): 10月上旬は平年より著しく高め、中旬以降かなり高めで推移している。
 備讃瀬戸(屋島): 10月前半は平年より著しく高め、後半以降かなり高めで推移している。
 燧灘(大浜): 10月上旬は平年より著しく高め、中旬以降やや高めで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成18(2006)年
 屋島: 昭和50(1975)~平成18(2006)年



4) 赤潮 (10月6日 ~ 11月5日)

播磨灘：10月18日 ~ 31日の間、播磨灘各地でメソディニウム・ラブラムによる着色が確認された。
 備讃瀬戸：発生なし。
 燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成19年11月2日 (播磨灘) 1日 (備讃瀬戸、燧灘)

出現量

個 (尾) / 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.38	11.13
備讃瀬戸平均	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.53
燧灘平均	0.14	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.43	1.43
総平均	0.13	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.80	3.57

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	10.7%	0.0%	-	-
備讃瀬戸平均	116.7%	0.0%	-	-
燧灘平均	16.5%	140.0%	-	-
総平均	14.1%	33.3%	-	-

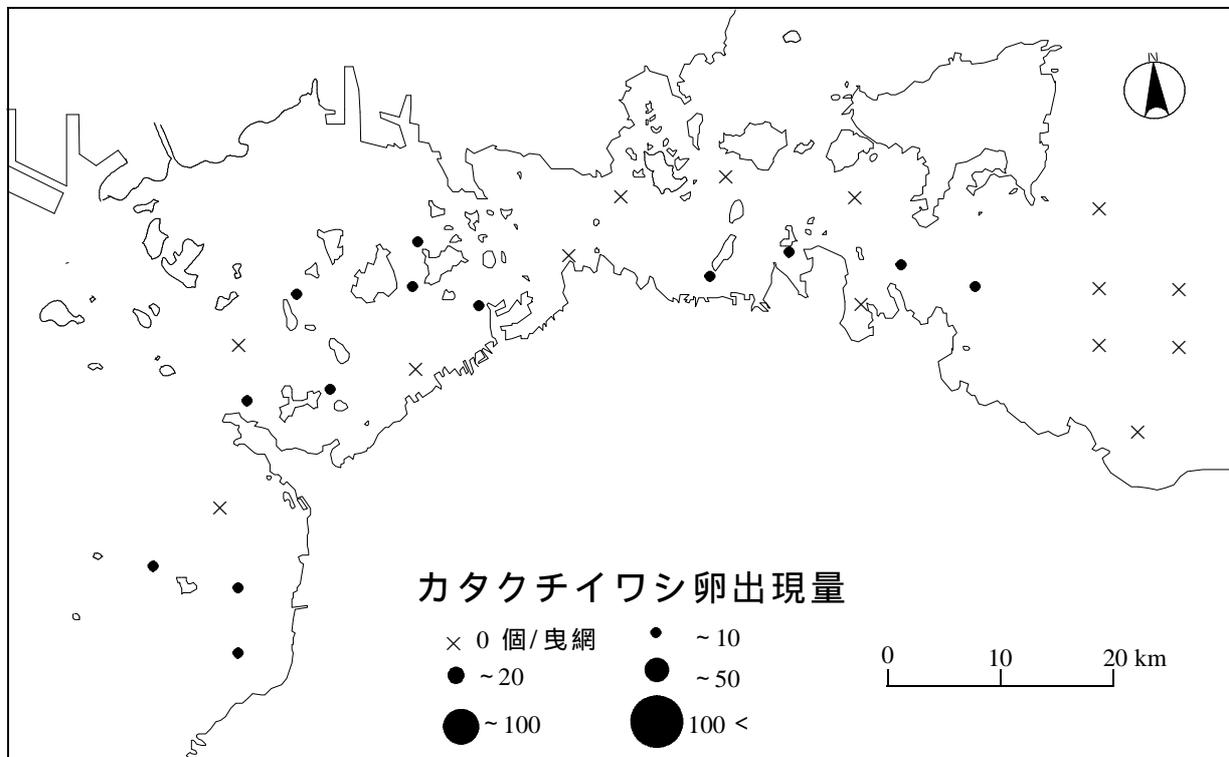
- 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55 (1980) ~ 平成18 (2006) 年度

マイワシ：平成5 (1993) ~ 平成18 (2006) 年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

10月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主にウシノシタ類、カマス類、イボダイ、小エビ類、コウイカ類が漁獲されている。</p> <p>桁網では主にマアジ、スズキ、ボラ類、タチウオ、カワハギが漁獲されているが、低調である。</p> <p>建網では当歳魚を主体としたアイゴが漁獲されている。</p> <p>船びき網のシラス漁は、11月に入っても3～4経営体が操業しているが、漁模様は低調で今年度の漁期はほぼ終了した。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マアナゴ、カワハギ、シロサバフグ、イイダコ、コウイカ類、小エビ類が漁獲されているが、例年と比べて、イイダコが多いが、メイタガレイ、ナシフグ、コモンフグが少ない。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主にメイタガレイ、シロギス、タチウオ、アカカマス、ガザミ、シャコ、コウイカ類、小エビ類が漁獲されているが、特に、クマエビ、シャコが多く漁獲されている。</p> <p>桁網では主にタチウオ、マルアジ、カワハギ(小)が漁獲されている。</p> <p>サワラ流し刺し網は10統前後が操業しているが、不漁である。</p>